

# 心理学的多元論のメタサイエンス

渡辺恒夫 (Tsuneo Watanabe)

東邦大学理学部生命圏環境科学科

心理学に統一パラダイムが不在なのは、そのメタパラダイムの多元性ゆえである。以下にメタパラダイムの3水準について、その多元性を明らかにしてゆく。

## 1. メタパラダイムの第1水準 (認識論的かつ、潜在的に存在論的)

「誰の心を観察するか」という**視点**の対立軸。観察者自身の心を観察するという「1人称的視点」vs. 観察者以外の人々の心を観察するという「3人称的視点」の、**認識論的**対立軸。

視点の対立軸は、自己と他者という存在論的対立項を前提しているゆえに、このメタパラダイムは**潜在的に存在論的**である。

## 2. メタパラダイムの第2水準 (方法論的かつ、潜在的に認識論的)

「われわれは自然を説明し心的生を理解する」とディルタイが説くように、**理解 vs. 説明**という方法論的対立は根深い。けれども、説明するか理解するかは、対象によって決まるのではなく、われわれの**認識論的態度**によって決まる。アイボと遊ぶ子どもは、アイボに対して2人称的態度を取るが故に、アイボを理解する一方、自然科学的医師は非人称的態度によって人間を説明する。ゆえに、このメタパラダイムは**潜在的に認識論的**である。

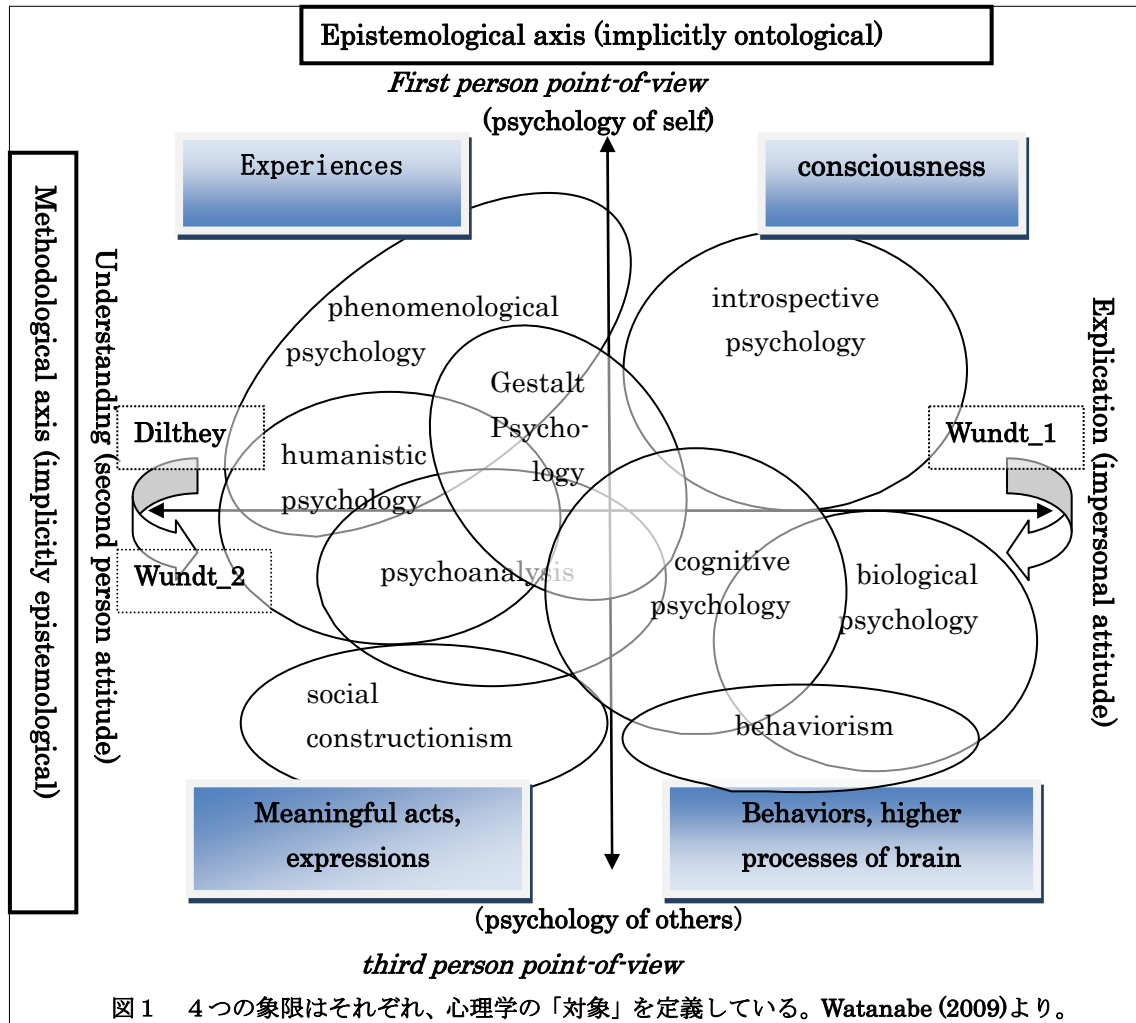
## 3. 2水準を縦軸と横軸として構成された2次元平面上に心理学の諸潮流を配置する

以上の、1人称的視点 vs. 3人称的視点という認識論的対立軸と、理解 vs. 説明の方法論的対立軸を縦軸横軸として2次元平面を構成してみると、図のように歴史上の心理学の諸潮流がこの平面上に位置づけ可能となる。第1象限は「**意識**」、第2象限は「**体験**」、第3象限は「**意味ある行為、表現**」、第4象限は「**行動、脳の高次過程**」となり、これは**心理学の対象**を定義することになる。図中、“Dilthey”と実験心理学者“Wundt1”を対極に位置づけたが、民族心理学者“Wundt2”をDiltheyの近くに配置した。個々の潮流の位置づけの正確さに拘ることなく、枠組み自体を問題にしてほしいが、この図には奥行次元(歴史的軸)が欠けている。

## 4. メタパラダイムの第3準 (メタ心理学的人間概念の多型性)

「人の心について研究せよ」という課題を与えられたとして起こすと想像されるアクションのタイプによって、心理学者を、否、人間一般を、3タイプに分類することが可能である。／第一(自己観察から考察を始める)のタイプにとって、「人間」の典型は自分自身である。このタイプがもっぱら依拠している暗黙の人間概念が**1人称的人間概念**である。／第二(パーティに行き人間を観察する)のタイプにとって「人間」の典型は相互交流の相手方であり、「我—汝」関係における「汝」である。このタイプがもっぱら依拠している暗黙の人間概念が**2人称的人間概念**である。／第三(ビデオカメラをランダムに道端に配置して通行人の行動を記録する)のタイプにとって「人間」の典型は集団の一標本としての見知らぬ他者である。このタイプの暗黙に依拠する人間概念が**3人称的人間概念**である。歴史的偶然的状況を捨象すれば、個々の心理学者は自らの暗黙の人間概念に近い象限にある心理学潮流に共感すると考えられる。

## 5. 心理学多元論の歴史的・発達心理学的な起源



人間概念の多型性は、心理学的多元論の経験的探究という新分野を切り拓く。

精神的には、人間概念には2人称的→1人称的と3人称的への分裂→その再統合への試み、という3段階が認められる(渡辺、1994)。個人発達のにも同様の3段階が想定できる。ただ、人間概念の3型は本来両立不可能であって完全なる再統合はありえないので、人生の曲り角には分裂を意識せざるをえない。これが自我体験・独我論的体験となる(渡辺、2009)。日常的に人間と称している概念は奇妙な異種混交物であり、メタ心理学的には3型、存在論的には自己/他者の2型となる。これが、心理学的多元論のメタサイエンスの根源である。

## 6. 結論と展望

- ① 「人間一般」などというものが存在しないにもかかわらず、心理学・人間科学が成立しているように見えるのはなぜか？自然科学的心理学における「反応」であれ、人間科学的心理学における「体験報告テキスト」であれ、データの公共性があるからに他ならない。
- ② 心理学的多元論の経験的探究も暗黙のメタパラダイムに依拠するので循環を招く。

## 文献

渡辺恒夫 (1994) 心理学のメタサイエンス：序説 心理学評論、*37*, 164-191.

渡辺恒夫 (2009) 自我体験と独我論的体験 北大路書房.

Watanabe, T. (2009). Metascientific foundations for pluralism in psychology. *New Ideas in Psychology*, in press.